

Title	三経義疏の所依について
Sub Title	
Author	志水, 正司(Shimizu, Masaji)
Publisher	三田史学会
Publication year	1977
Jtitle	史学 (The historical science). Vol.48, No.1 (1977. 1) ,p.32- 32
JaLC DOI	
Abstract	
Notes	
Genre	Journal Article
URL	https://koara.lib.keio.ac.jp/xoonips/modules/xoonips/detail.php?koara_id=AN00100104-19770100-0032

慶應義塾大学学術情報リポジトリ(KOARA)に掲載されているコンテンツの著作権は、それぞれの著作者、学会または出版社/発行者に帰属し、その権利は著作権法によって保護されています。引用にあたっては、著作権法を遵守してご利用ください。

The copyrights of content available on the KeiO Associated Repository of Academic resources (KOARA) belong to the respective authors, academic societies, or publishers/issuers, and these rights are protected by the Japanese Copyright Act. When quoting the content, please follow the Japanese copyright act.

三經義疏の所依について

三經義疏の所依に関する井上光貞氏の研究はまことに興味深いものがある。

- (イ) まず法華義疏は、花山信勝氏が対照立証されたように、光宅寺法雲の「法華義記」に依ったものである。
- (ロ) つぎに勝鬘經義疏も、敦煌本「勝鬘義疏本義」に対照され、その敦煌本は莊嚴寺僧旻又はその門流の注疏と認められる。

(ハ) 維摩經義疏は、科文からみて開善寺智藏のそれにもっとも近く、今は失われた智藏の注疏に依ったものであると推測される。

これを要するに、三經義疏はいずれも、南朝梁のいわゆる三大法師系の注疏を所依としていたことが、明らかにされたのである。

そして井上氏は三經義疏の成立を推古朝ごろとみなしておられる。

ここにも飛鳥仏教と梁仏教との深い関連が指摘されたのであり、さきの飛鳥仏教と涅槃經に関する私案ともよく符合する。ともども飛鳥仏教の様相をうかがわせるといえよう。

さらに井上氏は、参照した余疏として、隋の嘉祥大師吉藏の所説との関係に注目され、彼の「法華經義疏」「勝鬘經宝窟」などと、類同の説が多いことから、三經義疏の述作者は吉藏の所説をも参照利用したとみておられる。

とすれば、飛鳥仏教において、梁仏教に踵を接するように隋仏教が流入している様子が思われて、また興味深い。心ひかれるまま、井上光貞氏の論説を余白に紹介させていただく。(「三經義疏成立の研究」坂本太郎博士古稀記念、続